

10月の農業情報

タイトル 豊橋ミニトマト部会が高温耐性品種の導入実証に取り組む

とき 令和6年9月26日(木)

ところ 豊橋市

主体・対象 JA豊橋ミニトマト部会(118名)

内容

JA豊橋は高温対策転換支援事業を活用してミニトマトの高温耐性品種の導入実証に取り組んでいます。近年、夏季高温が悪影響して着果不良等の障害が増加し、ミニトマト部会では令和5年9～11月出荷量が令和2年～4年の同月比で約10%減少しました。対策として、部会は高温着果性を重視し、令和2年作から先行して「TY千果」の試作を始め、13%まで導入面積が増えています。令和6年作は裂果が少ないとされる「TTM-180」の導入実証に取り組んでおり、慣行品種「小鈴クイーン」と比べ1、2段果房の着果数が多く、着果率もやや高いことから有望視されています。今後も実証を継続し、各品種の着果性や裂果の発生、果実品質、収量性を確認します。



「TTM-180」着果の様子